

第三者評価結果

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<コメント> 全体的計画は、有馬川はなみずき保育園の理念や方針、目標、年齢別目標、養護と教育、食育、健康・安全・衛生、子育て支援などを整理し、地域の状況を踏まえた上で立案している。園は川崎市の住宅地の中にあり、都内に通勤する保護者も多く、長時間保育を実施している。子どもは朝7時頃に登園し、午前中に眠くなってしまいうこともあるが、子どもの生活のリズムに合わせ、健康に留意しながら保育を提供している。		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
<コメント> 園舎は2階建てで、1階は0、1、2歳児のクラスになっており、すぐに園庭に出られるようになっている。2階には、3、4、5歳児の幼児クラスがある。1階の廊下は広く、保育室の延長という感じで、抱っこをしながら、絵本の読み聞かせなどを行っている。園庭には、卒園児たちの大きな絵が描かれており、竹馬や三輪車などの遊具が置かれ、子どもたちが自由に遊ぶことができるようにしている。保育室内はコーナー遊びができ、折り紙や人形などを自由に選んで遊んでいる。室内外は保育士が毎日清掃、消毒して、特に乳児クラスの子どもは、おもちゃを口にするので、消毒したものと入れ替えて遊ぶことができるよう、2組用意して、常に清潔を保つようにしている。午睡用のベッドはコットを使用し、年2回、水洗いする他、毎日消毒している。保育室は明るく、清潔に保たれ、空気清浄・加湿器を使用して、冬場の乾燥を防いでいる。		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<コメント> クラス担当の保育士以外に、フロアに1名、フリーの保育士を配置して、どこかのクラスで子どもが泣いている時には、フリーがそのクラスに入り、担任が泣いている子どもにしっかり向き合い、何故泣いたのか気持ちを受け止めている。0歳児クラスは、看護師が子どもの状態を観察している。午睡の時間になっても、泣いていて眠れない子どもは、保育士が付いて、優しく背中をなでながら、少しでも休めるように対応している。朝の登園時に保護者と離れることができず、泣いてしまう子どもには、保育士がしっかり抱っこして、安心感が持てるように声かけしている。子どもたちには、どんな時も否定的な言葉は使わないことを徹底し、子どもの状態に応じた保育を実践している。		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>昼食は、ゆったりとした気持ちで摂取できるよう配慮している。乳児は保育士に抱っこされて、離乳食後のミルクを摂っている。幼児は保護者と連携し、無理なくスプーンから箸に移行できるよう、子どもの状況に合わせて対応している。子どもたちが、気持ち良く排泄に向うことができるように、トイレを暖かくして、自分から座ろうという気持ちを持ってもらうようにしている。各クラスに、着替えを入れる籠や、手作りの靴下入れなどを置き、それぞれ自分のマークと名前を貼って、自分のものを自分で仕舞えるようにしている。マークと名前は業者に頼んでシールにしてもらい、卒園まで使えるようにしている。</p>		
【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<p><コメント></p> <p>今年度の目標に「自主的な遊び」を掲げ、子どもたちが室内で自由に好きな遊びを選ぶことができるよう、コーナーごとにおもちゃを置いている。人形ごっこコーナーや、お絵かきコーナー、折り紙コーナーなど、子どもたちの興味を引くおもちゃを工夫して置いている。園庭でも、自由に遊具を選んで遊ぶことができるようにしているが、乳児クラスが外遊びをしている時は、三輪車は危ないので止めようなど、子どもたちと一緒にルールを決めて、外遊びをしている。また、異年齢保育の時間を作り、幼児クラスと乳児クラスの子どもが一緒に遊び、上の子どもが下の子どもの面倒を見るなど、小さい子どもへのいたわりの気持ちを育てている。乳児クラスの子どもは、上の子どもに憧れ、自分でやってみようとする気持ちが芽生え、お互いに成長し合っている。月1回の同一法人内の高齢者施設との交流では、一緒に歌を歌ったり、子どもたちが体操を披露したりして楽しんでいる。</p>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>現在は離乳食も後期になる子どもが何人かいるが、4月から6月頃は、担当保育士と看護師の他に、もう1人保育士が加わり、ミルクや離乳食、おむつ替え、沐浴などを行っている。ほぼ1歳近くになり、成長してきているが、保育士の抱っこや遊びなどで触れ合いをたくさん持ち、愛着関係を築くことができるよう関わっている。午睡時には優しい音色のオルゴールをかけて、安心して眠りに入ることができるよう、保育士が傍で見守っている。また、SIDS(乳幼児突然死症候群)対策として、5分おきに呼吸の確認をして記録している。喃語(乳児が発する意味のない声)や片言の言葉に対して、「そうなのね」など声かけて関わっている。看護師が毎日、子どもの顔色や機嫌などを観察し、健康状態に気を配っている。</p>		
【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>子どもたちは、免疫が希薄になってくる時期なので、咳が出たり、鼻水が出たり、熱が出たりすることがないか、健康状態に気を付けている。今年は特にコロナ感染症が心配なので、咳などの症状がある時は、食事のテーブルを1人だけのテーブルにするなど、できるだけ他の子どもとの接触を避けるようにしている。この時期は、自分でやろうとする気持ちが芽生えてくるので、その気持ちを大事にして保育している。靴下を自分ではこうしている子どもには、「ちょっとお手伝いしようか」と少し手を貸し、その後で「ここを引っ張ってみよう」とアドバイスして、自分ではけるようにしている。子どもが一人でできた時には、「できたね」と一緒に喜ぶようにしている。自分でできるのに、「やって！」と言ってくる子どもには、「1つやってあげるから、1つはやってみようか」と対応している。「やりなさい」ではなく、「一緒にやろうね」と、子どもの甘えたい気持ちも受け入れている。子どもたちが何かを発見した時には、耳を傾け、「ちいちゃいお花だね、何色？」など、発見を一緒に楽しんでいる。子どもたちは活発によく動き始める時期なので、どこで何をしているか、一人ひとりをしっかり把握することが大事と考えている。</p>		

【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>新型コロナウイルスの対策で、保護者は2階まで上がることができず、玄関ホールでの送り迎えになっている。クラスごとに、今日の保育の活動状況がわかるよう、玄関ホールに記録や写真を掲示している。外遊びの後は、洋服の着替えと手洗いを行ってから、クラスに戻っている。着替えた服は、自分で持ち帰り籠に入れ、清潔な状態で昼食や午睡をしている。ほとんどの子どもが自分のことは自分でできるようになっているが、個人差もあり、一人でできない子どもは、保育士が手伝いながら着替えている。年中や年長クラスの子どもは、喧嘩をしても自分たちで解決できるようになってきたり、当番を決めて園での生活の役割を担っている。近くには公園がたくさんあり、散歩マップを作成し、子どもたちはどこへ行くか自分たちで決めて楽しんでいる。今の時期はドングリや落ち葉を拾ったり、春はオタマジャクシを捕まえたりしている。落ち葉を画用紙に貼り、その上から画用紙を乗せて、写し絵を製作したりしている。</p>		
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>医師から障害の診断が出ている子どもがいる、最初の頃は、保育室に入れなかったり、パニックになったりしていたが、絵本コーナーがクールダウンをする良いコーナーになっていて、そこで落ち着く様子が見られている。保護者も積極的に療育センターに通い、子どもも園に慣れ、今は普通に落ちついた生活を送っている。障害があっても特別視せず、保育士は普通に関わるようにしている。言葉が出ない、奇声を上げるなど、関わりが難しい子どももいる。保育士が専門的な研修を受け、職員全体に内容を伝達している。「子どもの行動を決めつけない」ことを守って、関わっている。</p>		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>18時から20時、延長保育を行っている。1階の2歳児の保育室で、異年齢保育で遅番の保育士が対応している。軽食に、おにぎりや麦茶を提供している。子どもたちは保育士に絵本を読んでもらったり、好きなおもちゃで遊んだりして、落ちついて活動している。日中の保育士からの「引き継ぎ簿」があり、子どもの様子や保護者へ連絡事項などを申し送っている。「延長日誌」に、その日の受け入れ人数や子どもの状態を記録して、翌日の朝のミーティングで、内容を申し送っている。</p>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>毎年11月頃、子どもたちが近隣の小学校を訪問している。学校の見学や、1年生から「お客さんごっこ」の招待を受け、交流を楽しんでいる。保護者懇談会の場で、保育園と小学校の違いなどを保護者に説明している。園ではお手拭きを用意しているが、小学校では自分でハンカチを持って行くことなど、細かな点を伝えている。保護者からも質問が多く出る。卒園が近くなると、「保育所児童保育要録」を作成し、小学校に提出している。卒園児が通っている小学校に、年長児の担任や主任、園長が訪問し、授業を参観をした後に「幼保小連携会議」を開催している。保育士が小学校を訪れると、卒園した1年生が、とても喜んでいる。</p>		

A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>登園時、一人ひとりの顔色は悪くないか、傷はないか、鼻水は出ていないか、機嫌は良いかなど、視診を行い、子どもたちの健康状態の把握に努めている。朝のミーティングでは、各クラスの子どもの状態を全保育士で共有して、保育にあたっている。毎朝、家で検温し、保護者から状態を確認している。その日の出席人数、子どもの状態などを、看護師が「保健日誌」に記録している。年3～4回、幼児クラスを対象に、看護師が「健康集会」を開催し、手指の洗い方などを子どもたちに指導している。特殊なライトを使って、洗えているかどうかを確認したり、咳をしたときに飛沫がどれくらい飛ぶかを、毛糸の玉を紐につけたものを飛ばして、飛沫感染の話をして、子どもたちが健康に関心を持つことができるよう働きかけている。SIDS対策として、午睡の時間には、0歳児は5分おき、1歳児は10分おき、2歳児は15分おき、幼児は30分おきに、呼吸の状態を確認し、チェック表に記録している。</p>		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a
<p><コメント></p> <p>乳児は年5回、幼児は年3回、嘱託医による健康診断を実施している。健診は看護師が一緒に対応し、結果は「すこやか手帳」に記入し、保育士や保護者に確認してもらっている、問題がある場合は、保護者に伝え、病院の受診につなげている。年1回、歯科医による歯科検診も実施している。小児科の健診と同様、「すこやか手帳」に結果を記入し、保護者が内容を確認している。保育士も確認のサインをして、内容を共有している。</p>		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>卵アレルギーの子どもがおり、医師から指示書を入手して、保護者と打ち合わせ、除去食を提供している。事前に除去食の献立を保護者に示し、保護者の確認後、提供するようにしている。除去食は、園長が検食で確認チェックを行い、個別のトレイに、名前と除去食の札を乗せて配膳している。除去食は園長と栄養士のチェックの後、栄養士がワゴンでクラスに運び、栄養士と担任の確認チェック、その後他の保育士との確認チェックを行っている。アレルギーの子どもには、保育士が必ず一人ついて摂取するようにしている。</p>		
A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	a
<p><コメント></p> <p>食育に力を入れ、子どもたちが楽しみながら、おいしく食事を摂ることができるよう取り組んでいる。鍋パーティでは、買い出しから準備までを子どもたちが担い、自分たちで作る楽しみや、給食とは違う雰囲気を楽しんでいる。夏には流しそうめんを企画したり、おやつのカッキーの型抜きを楽しんだり、秋には栄養士による「さんま祭り」を行い、秋刀魚を見て、触って、食べ方や骨の取り方などを教わっている。また、食品群を3色に分け、赤は身体をつくる、黄色は元気いっぱい、緑は風邪を引かないなど、食の大切さを楽しく学んでいる。毎日の昼食はお替わりもでき、子どもたちは楽しみにしている。食事は業者が入り調理しているが、子どもたちの楽しみを考え、食育に協力している。</p>		

【A16】	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <p>栄養士が二十四節気の季節の献立を提供し、季節の食材を多く取り入れている。喫食簿に、子どもの食べ具合、人気メニューなどを記載し、月1回の給食会議の参考にしてしている。給食担当保育士や園長、業者で給食会議を開催し、食事についての話し合いを行っている。園では食育に力を入れているので、業者もいろいろとアイデアを出して協力している。保護者には、その日の献立のサンプルを玄関ホールに展示し、子どもたちが何を摂取したか、確認してもらっている。保護者懇談会の後には、食事試食会を実施しているが、今年度はコロナ禍のために実施していない。「給食だより」を玄関ホールに掲示し、保護者に見てもらっている。年長クラスは、卒園近くになると、リクエストを聴き、好きなメニューを提供している。通常は子どもと一緒に保育士も食事をしているが、現在はコロナの関係で、子どもの食事が終わってから、保育士は別の時間に食べるようにしている。</p>			

A-2 子育て支援

			第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
【A17】	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>保護者には、日々の登園、降園時に、玄関ホールや廊下で、子どもの様子を伝えている。コロナ禍の前は、保護者がクラスに入り、送り迎えしていたが、現在は保育士が持ち物をクラスから持ってきて保護者に渡し、その日の様子を話している。これまでは「連絡帳」を使用して保護者と連絡していたが、現在はデジタル化をすすめ、保護者との連絡は「コドモン」を使用している。毎月の「クラスだより」などは、玄関ホールにも掲示しているが、「コドモン」で、保護者に配信している。今年度は懇談会ができず、園からの資料も配信している。今年度は乳児クラスで保育参観を行った。「密」を避けて、外からクラスの様子を見てもらっている。保護者から、子どもの状態で相談などが配信されてくることもあり、返信することがある。</p>			
A-2-(2) 保護者等の支援			
【A18】	A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>登園、降園の際には、必ず保護者に声をかけ、子どもだけでなく保護者の様子も観察している。保護者に疲れている様子が見られる時は、励ましの言葉をかけている。保護者から、子育てに関する相談が発信された時には、できるだけ早く返信するようにしている。園の見学の際に相談を受けたり、「アリーノ」での相談を行い、地域で生活する子育て家庭の相談を受けている。地域に向けた体制を整えることが今後の課題である。</p>			
【A19】	A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>母親が子育てでイライラし、園の休みのときに子どもを怒ってしまう、父親がコロナの関係で仕事が休みになり子どもを怒ってしまうなど、保護者からの訴えや相談があった時には、市の保健師につなげて対応している。母親の様子や子どもの様子を注意して見守るようにしている。区が開催する虐待防止研修会に職員が参加しているが、今後は虐待防止に関するマニュアルを整備していくことが必要と考えている。</p>			

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>保育士が全員、年度末に一年間の自分の保育を振り返り、自己評価を行っている。子どもや保護者に対する対応について、自分の目標が達成できたか、改善点は何か、来年の目標は何かなどを記入し、保育実践の振り返りを行っている。その後、園長と面談し、次年度に向けて話し合っている。外部研修にできるだけ多く参加できるようにしている。</p>		